

北から南から

●化成の現場：JA菊池／セラコートR入り有機一発077・すこ稲R2753(その2)

表紙・田植えの進む圃場（熊本県・南阿蘇）

No. 344



じかまさ君[®]

チッソ リンサン カリ
22-14-14

正式名称:くみあいセラコートR入り複合244(AD)

◎成分

単位: %

チッソ			リンサン	カリ
全量	速効性	緩効性(セラコートR)	14	14
22	4.8	17.2		

◎商品特長

水稻理想的生育パターンに配合した基肥重点型肥料です。

この肥料は、塩安系肥料とセラコートRを水稻の理想的生育パターンにマッチするよう、バランスよく配合した基肥一回型肥料です

速効性・緩効性2種類の窒素を組み合わせています。

この肥料のチッソ成分は速効性(約22%)・2種類の緩効性セラコートR25(27%)・R70(51%)から構成されていますので中間追肥が省略できます。

省力化が期待できます。

この肥料は、窒素成分が22%と高く施肥作業の省力化が期待出来ます。

側条施肥に最適です。

この肥料は粒径が揃っており、さらにセラコートRの被膜の強さなどから、機械施肥(側条施肥田植機、背負式動力撒布機、ブロードキャスターなど)にも好適な肥料です。

◎使い方

- 品種や土壌条件により基肥量を適宜増減して下さい。
- 水田で使用する場合、田面水上に溶出終了後の殻が浮上することがありますから圃場の外に流出させないように注意して下さい。



形態別チッソ基肥量 (kg)

基肥量	速効性チッソ	緩効性(セラコートR)	合計
20kg	0.96	3.44	4.4
30kg	1.44	5.16	6.6
40kg	1.92	6.88	8.8
50kg	2.4	8.6	11.0

この肥料の利用方法に不明な点がございましたら、最寄りのJAにご相談ください。



JAグループ



セントラル化成株式会社

夏場の追肥作業から解放 米の低コスト生産に 基肥一発型肥料を!!

前号で、「セラコートR入り有機一発077」「すご稲R2753」について、熊本県のJA菊池七城中央支所を紹介しましたが、その後も稲は順調に育ち、同中央支所管内では主食用米・飼料用米ともに良好な作柄となりました。そこで、同中央支所を再び訪問し、JAのご担当者とお二人の生産者に平成27年産米を振り返ってもらうとともに、2つの基肥一発型肥料について伺いました。

長梅雨が心配だった平成27年産米は主食用米・飼料用米ともにますますの成果 —JA菊池七城中央支所管農課・永松弘樹さん

最

初に、平成27年産米の生育(JA菊池七城中央支所管内)について、同中央支所管農課の永松弘樹さんに伺いました。

永松さんによると、生育初期は長梅雨の影響で莖数が少なくて心配されましたが、梅雨明け後は晴天が続いて平年並みに追いつきました。その後、台風や稲刈り前の低温で収量が心配されたものの、収穫後の検査では充実不足などは少なく、一等比率も94%位だそうです(表参照)。

「気象状況から収量は少ないと思っていましたが、まずまずの出来だったのではないのでしょうか」と、まずはひと安心の永松さん。「出穂期は平年より2〜

表 セラコートR入り有機一発077の現地試験結果
収量調査結果(坪別)

	粗粍重 (kg/10a)	精粍重 (kg/10a)	しいな重 (kg/10a)	粗玄米重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	水分 (%)	玄米千粒重 (g)
セラコートR入り有機一発077	553.4	543.4	10.0	448.2	413.2	12.2	21.4

食味検査結果

	水分 (%)	タンパク質 (%)	アミロース (%)	脂肪酸度 (%)	食味値
セラコートR入り有機一発077	12.6	5.8	18.8	14.0	81

3日遅れで、平年とそれほど変わりません。特徴的だったのは病虫害で、ウンカの被害はほぼなかったと言ってよいでしょう。栽培層に基づいて一斉防除は2回しましたが、3回目の臨機防除はほとんどの農家がしなかったと思います」と、説明してくれました。

同中央支所管内は、(財)日本穀物検定協会の米の食味ランキングで7年連続特Aに認定された「城北ヒノヒカリ」の産地ですが、平成27年産の特裁米「ヒノヒカリ」も食味値は良好でした。「結果的には、



「平成27年産米はウンカの被害が特に少なかった」と話す、永松弘樹さん

※坪別数は15株

※JA菊池七城中央支店管内にて、平成27年産「ヒノヒカリ」で試験

※肥料以外の管理については、同JAの栽培層に基づく

※食味検査には静岡製機(株)製食味計を使用し、JAで測定

昨年の気候は『ヒノヒカリ』には良かったのかなと考えています。JAで測定した食味値も良く、今回も特Aを獲得してほしいですね」と、永松さんは8年連続の特Aに期待しています。

飼料用米「モミロマン」も、ウンカの被害がほとんどなく、「収量は平年並み以上で、なかには基準収量を超えた人もいらっしゃいました。『すご稲R2753』を使った農家は、今までで一番とれた年だったと思います（永松さん）」と、こちらも好成績でした。

有機質肥料の基肥一発型肥料で 低コスト・高品質な米づくりをすすめる

同

中央支所管内では、「七城のこめ（特栽米「ヒノヒカリ」）」で一発型肥料を利用する生産者の約8割が「セラコートR入り有機一発077」を利用しています。利用農家の声を永松さんに伺うと、「有機質肥料全般に言えることと思いますが、速効性がない分、初期生育はやや見劣りします。去年は長梅雨だったので余計にそう見えたようで、分けつ期の茎数が少ないと言われましたが、収穫後の収量や品質、食味値は良好でしたので、概ね満足されていると思い

ます」と話してくれました。また、「もちろん、『基肥+追肥』の方もいらっしゃいますが、『基肥一発』と『基肥+追肥』を比べると、収穫後の成績にはほとんど差はなく、追肥作業も省略できます。生産者の高齢化で夏の暑い時期に機械を背負って肥料を振ることは体力的に辛いので、『セラコートR入り有機一発077』をすすめています」とも話し、低コスト生産の一つとして、基肥一発型体系の普及に取り組んでいることを教えてくれました。

最後に、平成28年産米のテーマを永松さんに伺うと、11月中旬に菊池市で開催される「第18回米・食味分析鑑定コンクール・国際大会」を挙げてくれました。「テーマの一つですが、何とか『七城のこめ』生産者が金賞を受賞できるように支援しています。食味値などの数値だけでなく、土づくりや肥料、水環境など、産地全体をアピールして、新たな販路開拓に役立てたいですね」と、永松さんがコンクールへの意気込みを語ってくれました。



低コスト生産の一つとして、基肥一発型体系の普及がすすめられている

平成28年産米はすべて基肥一発型肥料で効率的・大規模な水稻複合経営をめざす —JA菊池組合員・高木良彦さん

同

中央支所管内で「七城のこめ」を5.5ha、飼料用米「モミロマン」を4ha栽培している高木良彦さんに、平成27年の米づくりを伺うと、「『七城のこめ』は出穂や開花は少し遅れましたが、平年並みの出来でした。病害虫が特に少なかった年で、ほとんどありませんでした」と振り返ってくれました。

高木さんは「七城のこめ」を「セラコートR入り有機一発077」と「基肥+追肥」の2つで栽培していますが、違いは追肥作業の有無と初期生育の差ぐら



米だけでなく、花きの新品種栽培にも積極的な高木良彦さん

いと考えています。

「できれば、平成28年の主食用米はすべて『セラコートR入り有機一発077』にしたいです。追肥の散布は手で振るかミスト機ですが、ミスト機では頑張っても20m位しか飛びません。ミストを背負った作業は大変で、散布しながら、『この田んぼは何で一発じゃないのかな』と思うこともあります。去年は追肥作業に丸3日かかったので、これがゼロになるのは大きいです。花きも栽培しているので、そちらの作業に回せるからです」

飼料用米については、収量はここ数年で一番よかったのですが、ジャンボタニシの被害があるので、収穫量としては他の生産者より少ないと見ています。肥料はすべて「すご稲R2753」で、使った感

じは良かったのですが、苗作りを間違えたことが反省点だそうです。「箱数を間違えました。『ヒノヒカリ』が多くて、『モミロマン』が少なかったのです」と、高木さんは失敗談も明かしてくれました。

経営面積は現状を維持 米づくりは省力化、花きは新品種に挑戦

現 在、高木さんは小麦「チクゴイズミ」の管理に忙しい日々を過ごしていますが、今のところ小麦の生育は順調だそうです。

高木さんの米づくりは、温湯消毒した籾をJAから購入し、5月20日頃から苗作りがスタートします。高木さんの平成28年産米の生産方針は「主食用米・飼料用米とも品種は変えずに、作付の比率も同じになると思います。まずは苗箱数をしっかり確認し（笑）、主食用米の肥料はすべて基肥一発型に切り替える」です。6月上旬に小麦を収穫してから、ほ場の作業に入りますが、「畔塗りは、ほ場の状態を見てから決めます。草刈りは刈り払い機ではなく、ウイングモアーなので畦が低くなり、畔塗りをしなくてもよいところが増えてき

ました」と、高木さんは最近の傾向も教えてくれました。

複合経営の高木さんは、花きを2ha栽培しています。現在、切り花のメインは「スカビオサ」で、10年前に作って一度やめて、5年前くらいから再び作り始めました。今年はカラーへの挑戦を計画中で、熊本県が育種した「ホワイトトーチ」「ホワイトスワン」を候補にしています。

新しい機械への関心も高い、高木さんが現在注目しているのが、薬剤散布用のドローンです。「発売して間もないため、まだ高いですが、無人ヘリに比べれば安い。何とか個人所有できる値段まで下がり、元が取れそうになったら買いたい」と、設備投資にも意欲的です。



同中央支所管内の麦は大麦・小麦とも生育は順調

基肥一発型肥料のポイントは「天候予測による散布時期」と「中干しによる調整」

—JA菊池組員・佐々廣道さん

最 後に、当社のヘビーユーザーの一人、佐々廣道さんにお話を伺いました。佐々さんも昨年は病害虫が少なかったと感じているようで、「『七城のこめ』は前半が遅れ気味で、後半に少し取り戻した感じでした。前半に日照があれば、もう少し分けつが進んだのではないのでしょうか。一等比率や食味値も良好でした。前半のマイナスからプラスに転じて、反収も8~9俵くらいなので、平年並みだと思います」と分析してくれました。

佐々さんは「七城のこめ」を「セラコートR入り有機一発077」で栽培しま



「麦には塩加磷安284を使っています」と話す、佐々廣道さん

す。毎年、その年が猛暑か冷夏傾向かを予測して散布時期を決めているそうですが、平成27年産米の結果を自己採点してもらいました。

「肥料分が出穂期に効いていると、出穂してから落ちてくれないので困りますが、分けつ期までにある程度効いていたのを確認できたので、及第点だと思います。そこから落ちてくれという時に中干しを強くかけました」と採点理由を説明し、中干しについては「基本的に施肥をコントロールするのは中干しだと考えています。強くかけるか、軽くかけるか、普通にかけるか。その前後に小干しをすると、自然と肥料の効きは落ちていきますが、長雨で中干しができない年は困りますね」と、話してくれました。

飼料用米には「もっと堆肥を」 低コスト生産には直播栽培に期待

飼

料用米「モミロマン」の収量もますますの出来だったそうです。こちらもうんかの被害がほとんどなかったほか、「すご稲R2753」を10aあたり50kg施したことも増収の要因ですが、「施肥量を増やした分だけ収量も増えます。本当は60kgにしたいのですが、収支面を考えると50kgですね」と、佐々さんは少々残念な様子です。

天候の影響がなければ、「モミロマン」は堆肥を10aあたり2t、その後「すご稲R2753」を10aあたり40～50kg施用すれば、基準収量は達成できそうですが、佐々さんは「それでも飼料用米には足りません。堆肥は3tくらい必要かもしれません。この稲の性格上、肥料をたくさん食うので、2tは最低ラインでしょう」と考えています。

佐々さんにも、平成28年産米の米づくりのテーマを伺いました。「人から安心・安全と認められるようなものを作らないと売れない」が佐々さんの大テーマですが、主食用米については、「ヒノヒカリ」が七城中央支所管内に導入されて25年過ぎていきますので、そろそろ転換期を考える時期かと思ひ、

「セラコートR入り有機一発077」に合う新品種の検討をはじめたいそうです。

飼料用米については、モリブデンをコーティングした種子の直播栽培を試験する予定です。「飼料用米で確立できれば主食用米にも応用できそうです。苗作りが不要になり、コストは下がると思いますので、何とかモノにできるよう、色々と試行錯誤したいと思います」と、意気込みを話してくれました。



「すご稲R2753」の施肥量を増やせば「モミロマン」の収量も増えるが、採算ラインは10aあたり50kg程度になる

【編集部より】

平成27年産「城北ヒノヒカリ」は(財)日本穀物検定協会の食味ランキングで特Aと認定され(平成28年2月25日発表)、8年連続の特Aとなりました。

●JA菊池七城中央支所 営農課

〒861-1353

熊本県菊池市七城町甲佐町24-1

電話:0968-25-2148

<http://jakikuchi.jp>

こだわり米にも、多収米にも、セラコートRを

まずは、「北から南から」343・344号の取材にご協力いただいた皆様、ご多忙の中、数々のコメントを賜り、誠にありがとうございました。紙面をお借りして感謝申し上げます。

熊本県では、特別栽培米の基肥一発型肥料として、こだわりの生産者にご使用いただいている「セラコートR入り有機一発077」があり、JA菊池の「七城米」の生産に役立てていただいております。この肥料は、良質の有機原料とセラコートRを組み合わせしており、生育後期まで肥効が持続します。また、有機態チッソを50%以上含みますので、特別栽培米の生産に適応した肥料です。

近年、全国的に飼料用米の生産が盛んになっています。熊本県では前号でも紹介しました

が、「すご稲R2753」を生産者の方々にご使用いただき、収量優先の飼料用米の生産にマッチした当肥料を役立てていただいております。

今年も肥料を準備する時期になりました。お近くのJAの窓口や注文書などでご確認の上、ぜひ、主食用米には「セラコートR入り有機一発077」で“うまい米づくり”に、飼料用米には高チッソ成分(N=27%)の「すご稲R2753」で収量アップにチャレンジしてください。

●商品についてのお問合わせ

セントラル化成株式会社 福岡支店

〒810-0001

福岡県福岡市中央区天神 3-11-1

(天神武藤ビル2階)

TEL : 092-721-7565 FAX : 092-761-3422

自然とコミュニケーション…

セラマイテーター[®]R

[セラコートR入り複合S555]

内容

名称	セラコートRの種類	セラコートRの窒素の割合(%)
セラマイテーターR1号	R50、R90	70
セラマイテーターR2号	R30、R50	70
セラマイテーターR3号	R25	70
セラマイテーターRL号	R90、R130	70

成分 (%)

窒素		リン酸		カリ
TN	AN	S-P ₂ O ₅	W-P ₂ O ₅	W-K ₂ O(硫酸カリ)
15.0	3.5	15.0	11.0	15.0

特長

●全量基肥の省カタイプ

セラマイテーターRは、野菜の初期生育に必要な速効性肥料と新しい被覆肥料セラコートRを組み合わせています。肥効調節型野菜専用肥料で、基肥全量施肥ができます。

●収量・品質を高める

野菜の生育に応じて肥効があらわれますので、追肥が省けるほか、収量・品質向上が期待できます。

●環境にやさしい

窒素の溶出がコントロールされていますので、肥料成分の溶脱や流亡が少なく、水質の汚染を防ぐ効果があります。

また、肥料の利用率が高まるため、施肥量を減らすことができます。

セラマイテーターRは、野菜類、花き類の基肥や、マルチ栽培、多作1回の施肥にうってつけです。土とよく混ぜて、全層に施してください。深層施肥にも効果があります。

使い方

作物	施肥基準量(kg/10a)	推奨銘柄(タイプ)
果菜類 きゅうり、なす、トマト ピーマン、すいか、いちご	150~200	R1号、R2号、RL号
茎根菜類 ごぼう、にんじん たまねぎ、にんにく、くわい	120~200	R1号、R2号
葉茎菜類 レタス、キャベツ、はくさい ブロッコリー、ねぎ、セロリ	100~200	R2号、R3号
花き類 キク、カーネーション	150~250	R1号、R2号

*施肥量は、品種、作型などにより異なりますので、適宜増減してください。

くわしい使い方については、最寄りのJAIにお問い合わせください。

新しい時代の コーティング肥料



特長

- 1 シャープなシグモイド型溶出**
溶出パターンは、初期溶出を抑制したシャープなシグモイド型で、土壌やpHなどには影響されませんので、作物が必要な時期に必要な量の窒素を供給します。
- 2 寒地から暖地まで、一回施肥で肥効ピッタリ**
溶出速度は温度で決まりますので、最適な銘柄の選択や組み合わせで、地域、作物、植え付け時期に適合した理想的な複合肥料をつくることができます。
- 3 被覆材には天然素材**
被覆材は天然素材を使用した植物油系ポリウレタン樹脂ですので、溶出終了後、光や微生物などの作用により徐々に分解・崩壊していきます。
- 4 抜群の耐衝撃性、機械施肥にも最適**
被膜には、抜群の耐衝撃性がありますので、機械施肥（側条施肥田植機、背負式動力散布機、ブロードキャスター）でも、溶出性能は損なわれません。
- 5 高成分で経済的**
全窒素保証が41%と高成分なので、大変経済的です。

農協 全農 県連

セントラル化成株式会社

本社/〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-7-1(興和一橋ビル)

TEL. 03-3259-2400 FAX. 03-3259-2426